

平成27年度
第1回 宮崎県河川整備学識者懇談会
= 13水系の河川環境の特徴 =

開催日 : 平成27年10月27日 14:00~15:30





開催場所 : 宮崎県西臼杵支庁

河川環境の特徴

	熊野江川	沖田川	鳴子川	五十鈴川
代表的 景観				
生物生息 生育場	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ヨシ原が混在する塩性湿地</u> ・ 山際に接し川幅が少し広がった空間にはアイアシ群落やシオクグ群落、ナガミノオニシバ群落等の塩沼植物群落が複雑に入り組んだ多様なハビタットが形成されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>干潟、ヨシ原、草地等へとつながるエコトーン</u> ・ ヨシ群落やシオクグ群落、ケカモノハシ群落やハマゴウ群落等が縦断的に分布し、抽水植物から塩沼植物、砂丘植物へと汽水域の植生変化が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>水際が護岸で固められ単調である</u> ・ <u>比較的平坦な河床</u> ・ <u>干潟や砂礫地等が形成され、底質も砂・礫等様々な材料で構成</u> ・ 鳴子川の由来となった水神様が祀られている中州 	<ul style="list-style-type: none"> 【河口部】 ・ 比較的平坦な河床 ・ 広い水面域と干潟の分布 ・ 水際部にはナガミノオニシバ群落やヨシ群落が分布し、標高が高い場所にはスキ群落が分布している ・ 河道と海岸の間に配置されたクロマツ林 【中～上流部】 ・ 中流域は谷底平野や山間地、上流域は急峻なV字谷 ・ 溪流、連続した瀬・淵が形成される
生息生物	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>多様な生物相（特に、底生動物相）</u> ・ <u>クマノエミオスジガニは当該河川がタイプ産地であり、またアリアケモドキ属の3種が共存する極めて希少な生息環境</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>多様な生物相（特に、植物相）</u> ・ <u>市民ボランティアによる保全・再生活動のもとで形成されたハマボウ群落</u> ・ 冬季は、カモ類等が越冬地として集団利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>多様な生物相（特に、底生動物相）</u> ・ 冬季は、カモ類等が越冬地として集団利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>多様な生物相（14水系の平均的状況）</u> ・ 冬季は、カモ類等が越冬地として集団利用
河川環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>豊かな生物相を育む河川</u> ・ <u>希少な生息環境を有する河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>豊かな生物相を育む河川</u> ・ <u>市民に親しまれる河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>豊かな生物相を育む河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>豊かな生物相を育む河川</u>
今後の河川環境のあり方	現状の維持	現状の維持	現状の維持 (エコトーンの形成)	現状の維持

注) 生物に関する記述は、H26年度に実施された14水系の河口域での現地調査結果(魚類、底生動物、鳥類、植物)に基づいた。

河川環境の特徴

	塩見川	赤岩川	新別府川	清武川
代表的 景観				
生物生息 生育場	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>広範囲の干潟、ヨシ原</u> ・ ヨシ原にはアイアシ群落やシオクグ群落等の塩沼植物群落が複雑に混在し多様な湿地環境を形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自然の営力による河口閉塞と流れの滞留化</u> ・ 水域・水際部における生息・生育環境の変化に乏しい ・ 面積は小さいもののヨシ原や草地、砂丘等の多彩な環境 ・ 砂丘植物群落の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>人工的改変による防潮堰上下流の淡水域・汽水域の分断</u> ・ 水域・水際部における生息・生育環境の変化に乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>広大な河川空間、海岸砂丘や干潟、湿地、ワンド、砂礫帯、草地等様々な環境がモザイク状に混在した多様な環境</u> ・ ヨシ群落、セイタカヨシ群落、オギ群落等で構成される広い湿地
生息生物	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>多様な生物相（特に、植物相）</u> ・ <u>水域のコアマモ群落はアカメ等魚類の生育場</u> ・ 干潟、ヨシ原は多くの甲殻類が利用しこれらを捕食する鳥類等の生息場 ・ 冬季は、カモ類等が越冬地として集団利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生物相の単調化傾向</u> ・ 砂丘はコアジサシの営巣地として利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生物相の分断と単調化傾向</u> ・ 冬季は、カモ類等が越冬地として集団利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>多様な生物相（全ての生物群で多様）</u> ・ 干潟や湿地、浅場は、チュウサギやコサギ、シロチドリ、ミサゴ等が餌場として利用
河川環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>豊かな生物相を育む河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生物相の単調な河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>生物相の分断、単調な河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>豊かな生物相を育む河川</u>
今後の河川環境のあり方	現状の維持	<u>生物多様性の観点から、良好な河川環境の保全に努める（エコトーンの形成）</u>	<u>生物多様性の観点から、良好な河川環境の保全に努める（上下流の連続性改善）</u>	現状の維持

注) 生物に関する記述は、H26年度に実施された14水系の河口域での現地調査結果(魚類、底生動物、鳥類、植物)に基づいた。

河川環境の特徴

	加江田川	伊比井川	宮浦川	風田川
代表的 景観				
生物生息 生育場	<ul style="list-style-type: none"> • <u>広い水域や干潟、ヨシ原、草地、樹林地等につながるエコトーン</u> • 汽水域縦断方向の抽水植物～塩沼植物～砂丘植物への植生変化。 • 原生的な照葉樹林が残された双石山(国の天然記念物)、加江田溪谷 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>自然の営力による河口閉塞と流れの滞留化</u> • 水域・水際部における生息・生育環境の変化に乏しい 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>自然の営力による河口閉塞と流れの滞留化</u> • 水域・水際部における生息・生育環境の変化に乏しい • <u>限られた水際の浅場に塩沼植物群落が形成</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>自然の営力による河口閉塞と流れの滞留化</u> • 水域・水際部における生息・生育環境の変化に乏しい • <u>面積は小さいが河口部砂丘、水際のヨシ原、草地、河畔林(河岸林)等の多様性</u>
生息生物	<ul style="list-style-type: none"> • <u>多様な生物相(全ての生物群で多様)</u> • <u>水域のコアマモ群落やヨシ原が分布する浅場はアカメ等魚類の良好な生息場</u> • 冬季は、カモ類等が越冬地として集団利用 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>生物相の単調化傾向</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>生物相の単調化傾向</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>生物相の単調化傾向</u> • 河口域から山地渓流域までの広範囲で見られる、<u>アカショウビンやサンショウクイ、オオルリ等多様な鳥類相</u>
河川環境	<ul style="list-style-type: none"> • <u>豊かな生物相を育む河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>生物相の単調な河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>生物相の単調な河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> • <u>生物相の単調な河川</u>
今後の河川環境のあり方	現状の維持	生物多様性の観点から、 <u>良好な河川環境の保全に努める(エコトーンの形成)</u>	生物多様性の観点から、 <u>良好な河川環境の保全に努める(エコトーンの形成)</u>	生物多様性の観点から、 <u>良好な河川環境の保全に努める(エコトーンの形成)</u>

注) 生物に関する記述は、H26年度に実施された14水系の河口域での現地調査結果(魚類、底生動物、鳥類、植物)に基づいた。

河川環境の特徴

	細田川	福島川		
代表的 景観				
生物生息 生育場	<ul style="list-style-type: none"> 河川空間の中に<u>海岸砂丘</u>や干潟、砂礫帯、ヨシ原等多様な環境形成 	<ul style="list-style-type: none"> 河口域で3川が合流し、広い水面域や干潟、<u>湿地等の多様な生息環境を形成</u> 天神川では、樋管を介した<u>特殊な塩性湿地が成立</u> 山間部のイスノキ・ウラジロガシ群落のような自然度の高い植生、赤池溪谷 		
生息生物	<ul style="list-style-type: none"> <u>多様な生物相</u> (14水系の平均的状況) 冬季は、カモ類等が越冬地として集団利用 	<ul style="list-style-type: none"> <u>多様な生物相</u> (全ての生物群で多様) 河口部のアカメをはじめ<u>多くの重要種の生息</u> 冬季は、カモ類等が越冬地として集団利用 		
河川環境	<ul style="list-style-type: none"> <u>豊かな生物相を育む河川</u> 	<ul style="list-style-type: none"> <u>豊かな生物相を育む河川</u> (河口域で3川が合流) 		
今後の河川環境のあり方	現状の維持	現状の維持		

注) 生物に関する記述は、H26年度に実施された14水系の河口域での現地調査結果(魚類、底生動物、鳥類、植物)に基づいた。